いずみさの教育NOW

問合先
学校教育課

社会に開かれた教育課程で未来を拓く子どもの育成を

令和3年度、中学校の新学習指導要領が本格実施となりました。小学校は令和2年度から本格実施となっています。

今回の学習指導要領改訂のポイントには、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」「指導と評価の一体化」などのキーワードがあります。

聞き慣れない言葉が多いと思いますが、いずれのキーワードにも共通するのは、学校教育を通して、これからの社会を創り出していく子どもを育てるという点でしょう。子どもたちの「未知の社会を生き抜く力」「自らの人生を切り拓いていく力」を育てるために、学校が地域や家庭、企業などと連携を図りながら、社会とのつながりを考えた教育課程を編成していく必要があります。

教職員の研修でも「地域教材・地域人材の活用」が初任者研修に位置付けられています。令和2年度は市の初任者研修で、文化財保護課、まちの活性課、自治振興課の各担当者が泉佐野市の歴史、観光、友好都市交流の紹介をし、泉佐野市の魅力や市の発展のための取組を教職員が学びました。受講者からは「泉佐野市はすてきな町だと思う」「泉佐野市を誇りに思う子どもたちを育てたい」といった感想が聞かれました。

話は少し変わりますが、GIGAスクール構想により、1人1台端末が配備されたことも学校と社会をつなぐ追い風となることが期待されます。教室にいながらにして、あらゆる場所のあらゆる人とオンラインでつながることができる時代となりました。

地域の人的・物的資源を活用する機会は、学校の教育活動の中に既に設定されており、これまでも多くの人のご協力をいただいているところです。子どもと地域の人、地域にある物などとの出会いが、単なる行事的に終わっていくのではなく、出会いを通してどのようなことに気づかせたいか、どのような力をつけてほしいか、といったねらいを明確に持つことがますます重要となってきます。また、そういった学校教育がめざすところを家庭や地域と共有していくことが「社会に開かれた教育課程」の第一歩といえるでしょう。

学校園紹介

いじめゼロ集会 ～長南中学校～

【いじめゼロ集会】

本校の前期生徒会が中心となって昨年11月9日㈪に「いじめゼロ集会」が行われました。

前期・後期生徒会がそれぞれ4つのストーリーの寸劇を行い、日常にありがちな「いじめにつながる場面」をテーマに演じてくれました。

劇の内容は、SNSに自分の情報が勝手に使われること、コロナ差別につながること、「遊び」と「からかい」が紙一重であること、授業での人の間違いを指摘することなど今の時流に乗った話題で、観劇する生徒も身近なこととして考えることができるものでした。

生徒会がいじめのない学校にするために訴える姿は、多くの共感を呼びました。

【「こころの再生」府民運動スクール表彰の表彰校に】

大阪府教育委員会は、「こころの再生」府民運動に関連する取組において、特に積極的にとりくんだ学校を毎年、表彰していますが、長南中学校の「いじめゼロ集会」の取組が令和2年度の表彰校に選ばれました。「すべての生徒が安心して過ごすことができる長南中学校にしたい」という思いで、いじめについてみんなが考える場をつくるために実施したこの集会が大阪府でも認められました。

この表彰を誇りに、益々、全校生徒が人の「こころ」を感じることのできる学校にしていきたいと思います。

自治のバトンを繋ごう ～日根野中学校～

日根野中学校では「集団づくり」を教育活動の中心に位置づけ、生徒の自治的・主体的な活動を推進しています。

令和2年度の生徒会では靴の校則改正に取り組みました。新型コロナ感染拡大防止のため、全校集会でアピールできないなどの厳しい条件がある中、「全校生徒の同意形成をどのように図るのか」「みんながルールを守れるという担保はどうするのか」といった課題に誠実に取り組み、活動を展開させました。

全校生徒へのアンケートを実施し、PDCAサイクルに則って、当初原案を修正したり、放送集会や生徒会新聞を通じて啓発をしたり、校長や生徒指導主事と交渉の場を持ったりするなど、様々な取組を積み上げて見事に校則改正を実現させました。

当時の生徒会長の言葉、「校則改正がきっかけとなって、生徒一人ひとりが主役となり、一つ一つの行動を考え実行していく、そんな学校になれたらいいと思います。ルールは自分たちの手によって作り、自分たちで守り、本当に自分たちのためになるよう活用していきましょう。私たちにはルールを守る義務と責任があります」は、まさに本校の校訓である「自立」の精神を表したものです。

これからも日根野中学校では先輩から引き継いだ自治のバトンをしっかりと繋いで、生徒が主体的に課題解決に取り組む学校文化を構築していきたいと思います。